

第5回 SB Student Ambassador 西日本大会

in 関西大学

探究を促進するキーワードは「ジブンゴト」、「『正しさ』よりも『楽しさ』」

11月10日(日)第5回 SB Student Ambassador 西日本大会が関西大学で開催され、本校から7名の生徒が参加しました。この大会は西日本地区から224名の高校生が集まり、5つのテーマに分かれてグループワークを行うプログラムです。持続可能な社会を実現するための課題解決に関する講演会やグループディスカッションに参加し、最後に全グループがポスター発表を行いました。オンワード、カンタス航空、損保ジャパン、JR貨物、YKK APの大手企業5社が各分科会を運営し、各分野におけるサステナビリティについて、高校生のアイデアを引き出すような活発なディスカッションが繰り広げられました。基調講演や5社の代表者によるパネルディスカッションもこれからの時代の変化が感じられる内容で、非常に刺激になりました。



SB Student Ambassador 西日本大会で学んだこと ～振り返りシートより～

他県の初めて出会う同世代の方たちと話し合い、意見を交換することで、社交性や話をまとめる力がより身についたように感じます。SDGsの個々の目標についてじっくり考えることで、実現できそうなアイデアも出て、SDGsへの関心が一層高まりました。私はファッション・サステナビリティのテーマで講義を受けましたが、繊維製品と樹脂でできた循環可能な素材などファッションだけにとどまらない、とてもおもしろい内容でした。今後SDGsについて深く関わる機会はたくさんあると思うので、今回学んだことを生かせるようにしたいです。身近なことからSDGsについて楽しく学べ、様々な出身地や年代の方とたちと話し合うことができたとても貴重な機会でした。



県外の人と交流する機会はなかなかないので、とても新鮮な交流イベントだったと思いました。普段から、私たちの身の回りにある問題などをさらに深掘りし、探究することで、これから気づくようになることもあるだろうと思いました。私たちが焦点を当てたのは「身近に潜むCO₂」です。日常で何気なくしてしまっている行動が実は地球温暖化の促進や温室効果ガスの大量発生につながっていることを取り上げました。原因として提示したのは、お風呂の追い炊きとエアコンの温度設定の2つです。発表時の反省としては、時間が足りず若干かんでしまったところです。でも、初めて顔を合わせた人たちと90分のディスカッションでプレゼンまで行けるもののだと実感できて、うれしかったです。

自らにとってプラスとなったことの1つは、初対面の人にとってどう対処すれば良いのか、自分なりの答えが出たことです。結論としては「先に話す方が吉」です。「ぐいぐい行ったらなんか思われるのかな…」なんて思っているだけ無駄です。私の班は大人しそうな人ばかりでしたが、積極的に話しかけてもしっかり答えてくれましたし、相手から話題を振ってくれることも多くなり、待っているよりはいいか良い行動かということが身にしみてわかりました。2つ目は馬鹿みたいなアイデアも意外と認められることがわかったことです。ディスカッションにときどき訪れる沈黙がイベント参加前に心配していたことでしたが、アイスブレイクで調子に乗って个性化的な意見を言っても意外にも周りの反応が良かったです。ディスカッションでは全体を引っ張るようにしましたが、反省点は発表内容をポスターにまとめる際に、下書きやデザインは他のメンバーに任せきりになってしまった点です。

